

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

| 達成度(評価) | |
|---------|---------------|
| A | : 十分達成できている |
| B | : おおむね達成できている |
| C | : やや不十分である |
| D | : 不十分である |

| | |
|--------------------------|---|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力向上が本校の重点課題と考える。今年度小中連携による学力向上推進地域指定を受けて、基礎学力を定着をもとに主体的、対話的に学ぶ児童を目指していく。 ・人と関わる力を高める支援の方法である。自分を大切に思う心を育てるために定期的にアンケートを実施し、必要に応じて声かけを行いながら児童に寄り添っていく。 ・基礎的な体力向上をねらい、日常の外遊び奨励を続けた。目標値には届かなかったものの季節を問わず運動場で多くの児童が遊ぶ姿が見られた。また、「食」についても、栄養教諭を活用した食育指導を継続していく。 ・本校の教育課題改善に向けて「保護者・地域等との連携」を掲げている。そのために様々な体験的活動を仕組み、その教育効果を更に高めるために、地域人材・保護者との連携・協力を進める。 |
|--------------------------|---|

| | |
|-----------------|------------------------------|
| 2 学校教育目標 | 元気に楽しく学ぶ西唐津っ子 ～西唐津小ONE TEAM～ |
|-----------------|------------------------------|

| | |
|-------------------|--|
| 3 本年度の重点目標 | <ul style="list-style-type: none"> ①知：やる気⇒学力向上に積極的に取り組む。 ②徳：ほん気⇒思いやりの心を持ち「人・もの・こと」と関わる心を育てる。 ③体：げん気⇒安全・安心な学校づくりに取り組む。 ④保護者・地域等との連携を推進する。 |
|-------------------|--|

4 重点取組内容・成果指標 **中間評価** **5 最終評価**

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | | 主な担当者 | |
|--------------------|--|--|---|-------------|----------|-------------|------|---------|-------|---------------------------------|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | | 意見や提言 |
| ●学力の向上 | ○授業の中で、自分の考えを書き、交流を通して、考えを広げたり深めたりする。 ○補充指導等を通して基礎・基本を確実に習得させる。 | ●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。 | ・定期的に校内研修会等で、マイプランの進捗状況を確認する。また、他の学年の状況を共有し、更なる取組の促進を図る。 | | | | | | | 長野 徳永 宮崎 |
| | ○教師一人ひとりが、唐津市学力向上アクションプランに則った授業形態を実践し、児童の主体的・協働的な学び合いについて研究を深める。 | ○学力向上アクションプランチェックシート(学校用)でチェック内容の評価で「A」の数を5つ以上。 | ・一人一人の教師の思いを大切にしながら、足並みを揃えるところは揃え、学校全体の教育力を高めていく。 | | | | | | | |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「友だちに対して思いやりの気持ちをもって優しくしていますか。」について、肯定的な回答をした児童が85%以上を身に付ける教育活動 | ・道徳教育の充実。 ・縦割り活動やボランティア活動を通してお互いを思いやる経験を積めるようにする。 ・児童の善い行いに気づいた教師が「ほめほめカード」を書いて掲示し、児童のよさを認める温かい雰囲気作りをする。 ・ふれあい道徳や通信による保護者との連携。 | | | | | | | 人権同和 酒井・久浦 道徳教育 徳永 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 | ・いじめアンケート、毎月初めの「西小アンケート」の結果をもとに早期発見に努め、担任、生活主任、SC、SSWなどを中心に複数で連携して早急に解決に当たる。 | ・日常の児童観察や毎月の「よい子アンケート」等で、児童の状況・状態の変化に気付く。 ・気になる児童については職員同士で密に情報交換を行う。 ・必要に応じてSCやSSWとも連携し、よりよい方向性を見出す。 | | | | | | | 教育相談 江川 生徒指導 木下秀 |
| | ◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | ◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)85%以上 | ・地域の人々との交流を通して学ぶ体験活動を各学年、年3回以上実施する。 | | | | | | | |
| ●健康・体づくり | ●運動習慣の改善や定着化 | ●外遊びや体力作りに関する児童用アンケートを実施し、その達成率を90%以上にする | ・体育委員会からの放送や担任からの呼びかけを行い、外遊びを奨励する。 ・体育学習の工夫(カリキュラムの工夫)を行い、体育の授業や体を動かすことが好きな児童を増やす。 | | | | | | | 保体部 永尾 給食指導 濱口 生徒指導(安全教育) |
| | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上 | ・早寝、早起き、朝ご飯の取り組みを家庭と連携して行い、望ましい食生活を身に付けさせる。 ・食生活アンケートの実施。 | | | | | | | |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・毎月第3週目をノー残業推進週間とし、職員に積極的に呼び掛ける。 ・校務サーバーを整理し、これまでの文書データを有効的に活用できるようにする。 ・校務を整理し、チームとして対応できるようにする。 | | | | | | | 教頭 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | | 主な担当者 | |
|----------------------|--|---|---|-------------|----------|-------------|------|---------|-------|---------------------------|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | | 意見や提言 |
| ○特別支援教育の推進 | ○(学校独自重点取組・任意)すべての子どもたちにとってのまなびやすい環境を作る。 | ○(学校独自成果指標・任意) ・各学期初めに、教室環境を整える。 ・2学期以降に、特殊音節などのアセスメントを行い、必要な支援につなげていく。 | ・各教室のまなびやすい環境作りを進める。 ・アセスメントをもとに、必要な支援につなげていく。 | | | | | | | 特別支援 藤浦 尾島 熊本 川原 麻生 |
| ○地域連携・幼小中連携 | ○小、中連携しての授業づくりの実践や指導方法の交流により基礎学力を向上させる。 | ・「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を実施したと答えた教員80%以上。 | ・中学校との連携は9年間というスパンを見据えながら計画を立て、内容の充実も図っていく。 ・年3回以上、小中交流会を実施し、「授業づくり1・2・3」を活用した主体的・対話的な学びを取り入れた授業を公開する。 | | | | | | | 教務 教頭 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

| | |
|----------------------------|---|
| 5 総合評価・ 次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ |
|----------------------------|---|